

検討チーム有識者等ヒアリング 議事要旨

日時：平成 21 年 12 月 17 日（木）12:00～12:30

場所：中央合同庁舎 4 号館 1 2 1 4 会議室

出席者：菅直人副総理、荒井聰内閣総理大臣補佐官、津村啓介内閣府大臣政務官、近藤洋介経済産業大臣政務官、田村謙治内閣府大臣政務官、長谷川憲正総務大臣政務官、中村哲治法務大臣政務官、高井美穂文部科学大臣政務官、足立信也厚生労働大臣政務官、郡司彰農林水産副大臣、馬淵澄夫国土交通副大臣、田島一成環境副大臣、平岡秀夫衆議院議員、田嶋要衆議院議員、寺田学衆議院議員、手塚仁雄衆議院議員

有識者：福武總一郎氏（株式会社ベネッセコーポレーション会長）

1 福武氏から、配布資料に基づき説明

2 意見交換における主な発言

- 私も直島に行ったことがある。経済成長が最終目的ではないとの最後の言葉が印象に残った。また、新しい文化などを生み出すことが経済成長の最後のキーかなと思った。政治・行政のネックがあれば指摘してほしい。（菅副総理）
- 一番は長期ビジョン。日本は世界第 2 位の経済大国なのに借金があるのはくるっている。そこが真剣に討議されてない。負の遺産をどうするのか、前政権では議論されていない。将来の子どもたちの意見を、18 歳以上に選挙権を行使させるなどして、聞くことが必要。何をやる・やらないのメニューだけ並べてもだめ。1 つ挙げるとすれば、先ほど説明した電気自動車のバッテリーの標準化。小さいようだけどとても重要。（福武氏）
- グローバル化に関連して、国際結婚について、二重国籍の問題はどうか。（中村法務大臣政務官）
- 行政レベルで考えればよいこと。世界的には当たり前。こういうことのありきを認めるべき。小さい問題を大きくえぐるのはどうかと思う。（福武氏）
- 高等職業訓練教育については、職業訓練学校・高等専門学校などの器はあるが、どのように変えていくべきか。（近藤経済産業大臣政務官）

- モデルはオーストラリア。職業教育と高等教育のリンクができています。また、留学生の受け入れをひとつの輸出産業として捉えている。日本は遅れており、環境など最先端の技術を教えられる仕組みがない。子どもだけでなく社会人も含め、こういうことを学ぶ施設が日本にはない。(福武氏)
- どうやって隠れたニーズを見つけるかが課題。教育・介護・文化・電気自動車など、様々な視点で取り組まれていらっしゃるが、福武会長はどうして発掘できたのか。(荒井内閣総理大臣補佐官)
- 田舎の人間だから。人間・歴史・文化・情報がないところで政治の意思決定をしても良くない。東京はどこまでいってもバーチャルな空間であり、東京の人には無理。自然のないところで意思決定はできない。(福武氏)
- 政治家があるべきリーダーシップをとれなかった理由は、個人にあると思うか。システムにあると思うか。(津村内閣府大臣政務官)
- システムもある。国は地域の集合体という前提が大事。始めに国が主導しても、うまくいったら地域に主権を渡すべきで、日本はそのタイミングを逸した。経済発展が目的なのではない。日本は手段と目的を勘違いしている。目的は国民の幸せで、そこを徹底して考えれば、こんな負債は考えられない。(福武氏)
- 今のお話は地域に根ざすことが大事だということだと思うが、他方で、グローバル化・国際競争にも対応すべきと言われた。両者がどうしたら調和する日本になれるか。(平岡衆議院議員)
- 地方にいないと無理。地方のほうがグローバル社会との繋がりがあり、そこを理解しないと。さきほど説明した華僑ならぬ「和僑」。日本人が幸せになれば良いのであって、日本が幸せになれば良いのではない。また、日本人という考え方ではなく、地球人という考えをもたないと、世界ではリスペクトされない。(福武氏)
- バッテリーの標準化の話は経済産業省に働きかけを行っているか。近藤経産大臣政務官にはテークノートだけではなく、真摯に検討して欲しい。(菅副総理)
- 経済産業省としても、標準化を頑張っていきたいと思う。(近藤経済産業大臣政務官)

○ ぜひお願いします。(福武氏)

(以上)

検討チーム有識者等ヒアリング 議事要旨

日時：平成 21 年 12 月 17 日（木）12:30～13:00

場所：中央合同庁舎 4 号館 1 2 1 4 会議室

出席者：菅直人副総理、荒井聰内閣総理大臣補佐官、津村啓介内閣府大臣政務官、田村謙治内閣府大臣政務官、長谷川憲正総務大臣政務官、中村哲治法務大臣政務官、高井美穂文部科学大臣政務官、足立信也厚生労働大臣政務官、郡司彰農林水産副大臣、馬淵澄夫国土交通副大臣、田島一成環境副大臣、平岡秀夫衆議院議員、田嶋要衆議院議員、寺田学衆議院議員、手塚仁雄衆議院議員、黒岩宇洋衆議院議員
有識者：枝廣淳子氏（環境ジャーナリスト、翻訳家）

1 枝廣氏から、配布資料に基づき説明

2 意見交換における主な発言

- 原子力についてはどういう評価をしているか。（平岡衆議院議員）
- 運用面をみるとCO₂排出量は少ない。しかし、私たちは温暖化対策だけのために生きているのではない。核廃棄物の問題や途上国への核拡散という2つの問題がある。あと日本に限って言えば、地震国ということがある。原子力発電の稼働率を上げるのはいいが、普及をはかることは不安定な要因が多く賛成ではない。（枝廣氏）
- 温暖化対策税など国民の負担に対する意識と温暖化の現状との乖離を埋めるために、国民の理解を得るための良いアイデアはないか。（田嶋環境副大臣）
- まさに「コスト・リテラシー」である。対策をやらなかった場合のコストを出すことも重要。やりたくない人は脅しのように負担の話ばかりをするが、やらなかった場合の数字やシミュレーションを研究者に出してもらい、対策をやった場合、やらなかった場合のそれぞれのコスト、リスク、ベネフィット等をしっかり示し、説明すれば国民にもわかってもらえる。（枝廣氏）
- 先ほどのご説明にあった小型風力発電の大きさはどれくらいか。（菅副総理）
- 屋根につけられるくらい。（枝廣氏）

- 小型風力発電はヨーロッパで広がったが、日本でも普及しているのか。（菅副総理）
- 軒先に取り付ける感じなので、都市部より農村の方が取り付けやすい。音もしないし、増えている。（枝廣氏）
- （個別の技術を組み合わせて）「システム」として提供する能力について、何が必要で、何が欠けているか。あと、輸送のコストについて、なぜ貨物のシェアが伸びないのか。（荒井内閣総理大臣補佐官）
- システムが普及するためには、コーディネーターが要る。政府でも産業界でもいいが、個別企業の強みを組み合わせて他国に提案することが重要。日本には、全体的にコーディネートする教育の場がないことが問題。貨物については、ダイヤの関係で今が目いっぱいであり、需要はあっても電車の空きがない状況。ダイヤが限界要因になっている。（枝廣氏）
- 土壌のCO₂吸収力が排出量取引においてオフセットクレジット化されていない理由は何か。（黒岩衆議院議員）
- モニタリングする計測技術が進んでいなかったから。森林は今の技術でモニタリングできるようになったから今COPでとりあげられている。最近は衛星やトラックで計測する技術ができてきているので、次の会議で議論されるようになってくると思う。（枝廣氏）
- 計測技術だけの問題ではなく、土壌の吸収量が大きすぎて、排出権取引市場が崩壊するからではないのか。（黒岩衆議院議員）
- 大きいのは確かであるが、同じように対処できると思う。（枝廣氏）
- 海が一番CO₂吸収量が多い。土壌がCO₂吸収に果たす役割については私はまだ若干クエスチョン。日本の木材は全体の80%を輸入しているが、それらを廃材として燃やすことはCO₂排出量にカウントされてない。日本で育った木を使用し、燃やし、また植えればゼロエミッション。森がたくさんあるからといってCO₂が吸収されるのではなく、森が太ることが大事。究極はゼロエミッション。火星と金星の大気のCO₂濃度は今でも95%で、45億年前の地球の大気の濃度と同じ。それが45億年のうちに地球の大気のCO₂濃度が0.04%まで下がったのは、大部分は植物によっていろんな形で固定化されたから。地球を救うのは植物ではないかと私は信じている。（菅

副総理)

(以上)